生田目後援会設立趣意書

生田目竜也君（以下、生田目）は、2002（平成 14）年 2 月 22 日、大田原市で誕生しました（現在 23 歳）。

タイ出身の母と日本人の父との間に長男として生まれた生田目は、小学校から体が大きく、市内のわんぱく相撲では 2 位となったこともありました。しかし、それ以降の相撲の経験は高校生になるまでありませんでした。生活困窮など家庭の事情もあり、中学・高校とさくら市の児童養護施設で生活しています。

中学の時の恩師の勧めもあり矢板高校へ進学し、本格的に相撲を始めることとなりました。1 年時には団体でインターハイ出場（大将として）するも敗退。2 年、3 年時には個人としてインターハイに出場、国体にも 2，3 年時に出場しています。しかし、上位に組み込むことはできませんでした。2 年時の関東選抜相撲では準優勝を納めましたが、本人は「実績がない」という認識をしています。そのような生田目ですが、1 年時より二子山親方は何度も部屋への勧誘をしてくださっていました。他にもいくつかの部屋から勧誘がありましたが、最初から声をかけてくださったのが二子山親方であったことと、本人の特徴である突き押し相撲を高めていくために、との思いで二子山部屋への入所を決意しました。

2020（令和 2）年 1 月場所で初土俵を踏みました。同年 7 月場所、9 月場所と 6 連勝をしましたが、優勝を決める 7 番相撲に敗れ優勝を逃しました。その後も順調に勝ち越しを重ね入門 2 年目の 2021（令和 3）年 7 月場所で幕下に昇進しました。二子山部屋は、部屋の立ち上げから年数も浅く、当時入門力士が全員幕下以下という状況でした。そのような中で、自分と年齢が近い仲間が共に切磋琢磨していけたことも力をつけていけたことの一つかもしれません。2023（令和 5）年 9 月場所、栃武蔵との対戦で左膝十字靭帯を負傷し、2 番休場した後、7 番目からは再出場しました。その後、手術は行わず、筋トレとリハビリにより相撲を取っています。

2024（令和 6）年 3 月場所、4 勝 2 敗で入れ替え戦となる千秋楽の千代栄関との取り組みで敗れました。続く 5 月場所、西幕下 2 枚目として臨み、4 勝 2 敗で迎えた千秋楽、十両の風賢央関との取り組みで見事勝利。場所後の編成会議において、新十両昇進が決定しました。

2024（令和 6）年 7 月場所、十両として臨んだ名古屋場所、初日こそ前に出るいい勝ち方をしましたが、その後膝を再度痛めてしまいました。しかし休場することなく 15 日間がむしゃらに前に出る相撲を取り続け、4 勝 11 敗という成績で名古屋場所を終えました。

8 月 26 日の番付発表では、東幕下 4 枚目と降格しましたが、再十両昇進を目指し、日々厳しい稽古に励んでいます。目指すは「幕内」、そして親方のしこ名であった「雅山」の継承と、強い決意の下、精進しています。

発起人一同、そんな生田目を誠心誠意支援し、幅広い年齢層に生田目の魅力を広めるとともに、相撲界の活性化を目的として「生田目後援会」設立を発意した次第です。

皆様方には、設立趣意にご賛同を頂いた上、ご入会の申し込みを心よりお待ちしております。

令和 6 年 10 月吉日

発起人　　福田　雅章　　花塚　隆志　　佐藤　貞一郎　　森島　仁　　櫻井　伸彰